

佳作

## あたたかい笑顔

鹿児島県 出水市立野田小学校六年 横山 千乃

「ごはん、おいしかったですか。」

何気ない言葉だが、わたしは、介護士さんがみんな笑顔で話しかけていることにおどろいた。わたしは、正直、笑顔は苦手である。まして、誰にでも話しかけることはとてもできない。介護士さんの仕事の体験をしているあいだも、うまく笑顔になれなかった。

わたしは、この夏、老人介護施設「野田の郷」のボランティアに参加した。介護の仕事をやってみたかったわけではなく、友達も参加していたので、なんとなく参加したのだった。母が老人介護施設で看護師として働いているので、どんなところなんだろうと少し気になったこともあった。

実際、ボランティアに行くと、まず、あいさつをしてからすぐに、洗たく物をたたみ、窓ふきをして、床のモップがけと、たくさんの仕事につかれてしま

った。まるで家で手伝っていることと同じに感じられた。でも、介護士さんのこまかいところまでそうじをしている様子を見ていて、家でやっている以上なのがよく分かった。おばあちゃんたちが病気になるために、清潔なことが一番大切なのだ。だから、床のすみずみまで消毒液できれいにしているのだ。さらに、ただ掃除や洗たくをしているのではなく、いつも周りに話しかけ、話し方などから、おじいちゃんたちの体調を考えているのも、よく分かった。なにより、とても明るいのだ。あいさつの言葉ひとつで明るく周りを包みこむようだった。

ご飯の時間、おじいちゃん、おばあちゃんたちは、普通にご飯を食べている人もいれば、やわらかいご飯を食べている人もいた。介護士さんたちは、自分のお昼ご飯を食べるひまもなく、おじいちゃんたちにご飯を食べさせていた。相手の食べるペースに合わせて、口に運ぶのはとても大変そうだった。そういうひとつひとつがすごいなと思った。

周りの人のことを考え、相手の心に合わせて動くことはとても難しい。介護の仕事は、それをいつも笑顔でやっているのだと思った。わたしは、そうじや洗たくは手伝っても、笑顔で話しかけることがで

きなかったのだ。私のお母さんも、きっと今、笑顔でおばあちゃんたちに話しかけているのだと思うと、人に気をつかってがんばっているお母さんはすごいなと思った。

わたしは、日頃から、気を配るのが苦手だ。でも、周りを気づかうこと、自分からコミュニケーションをとることは大切なことだと、今回、あらためて思った。友達はもちろん、地域の人や、そして家族にも、もっと自分ができることをしていきたい。まずは、自分から進んで明るくあいさつをしていきたい。介護士さんたちのような、周りを明るく包み込むようなあいさつができるように心がけていきたい。